

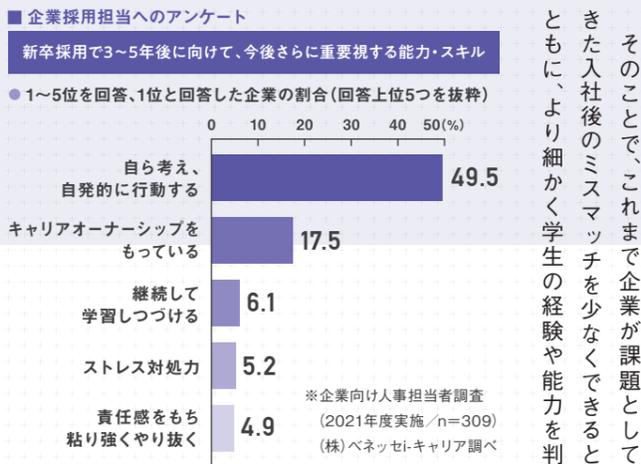
「働く」を考える 変化していく就職することの価値観。 重要なのは、自らのキャリアについて、 主体的・能動的に考え行動すること

人生100年時代といわれる現代、大学生の就職活動や働くことの価値観は変化してきています。ここでは、統計などをもとに学生を採用する企業の視座から、今後、社会で「働く」ために重要な要因について解説します。



より良質な学生を求めて 企業からのアプローチが始まった

大学生の就職活動スタイルは年々様変わりしています。いわゆる「リクルーティングサイト」を通して、企業へ学生が応募（エントリー）し選考が進むというスタイルが、インターネットが普及して以来主流でした。しかしここ数年、「ダイレレクトリクルーティング」の比率が高まってきています。ダイレレクトリクルーティングとは、あらかじめ学生が登録している情報（学生時代の経験や所有スキルなど）を企業が見たうえで、学生に直接選考のオファーができるもので、これまで学生の応募を待つカタチから、企業がアプローチできる攻めの採用ができるようになり、より自社の人材要件にマッチした学生の獲得が望めるものです。



断ることができるようになりました。他方、学生側から見ると、就活に向けた付け焼き刃では就職戦線で良い結果を得ることは困難で、4年間の大学生活でいかに意欲的に学び、成長したかが重要になるといえることです。

人生のビジョンを描き、 自立的にキャリアを形成する時代

企業が新卒採用で今後さらに重視する能力・スキルは「自ら考え、自発的に行動する」「キャリアオーナーシップをもっている」が上位を占めています。最近頻繁に耳にする「キャリアオーナーシップ」とは、「自らのキャリアについて、どうしたいのか、どうなりたいかを主体的に考える」ことで、日本企業の特徴であった終身雇用はもはや影を潜め、これまで社員のキャリアは企業がつくってこられたといった風潮から、キャリアは個人が形成していくものになってきています。長い人生のビジョンを描き、自分にとって「働く」とはどういうことかを考えたうえで、一つの通過点である就職と向き合う必要があるのです。

2020年初めからの新型コロナウイルスの感染拡大は、採用や就職活動に変化をもたらしました。コロナ禍の影響を受け採用を取りやめる企業、逆に影響を受け採用意欲を高める企業など明暗が分かれたことはもとより、リモートでのインタビューや面接選考が進みました。また、短期間でリモートワークが浸透したことによって、働き方も各々の成果や能力が問われる傾向が高まりました。これからは、たとえ企業や組織に所属しても、自立して「働く」と向き合う必要性が問われるでしょう。

メディアムサイズの大学だから 一人ひとりを丁寧に支えられる

本学では、学生のみなさんが大学時代に身につけた専門知識や経験を生かして自分たちがめざす仕事に就き、充実した人生を送れるよう一人ひとりの個性を尊重した進路指導を行っています。個別相談に力を入れると同時に、進捗の気になる学生に対しては電話で直接話を聞いてフォローするなど、メディアムサイズの大学だからこそできる細やかな支援を実践してきました。

さらに「なりたいたい自分」をじっくりと見つめ、進路実現に向けた準備を進められるよう、1年次から4年次まで継続してキャリアデザインサポートを実施。正課の授業であるキャリアデザイン系専門教育科目や法律・会計・財務・ITリテラシー・ビジネス英語など多様な科目群からなる「キャリア創生共通科目」と合わせて、将来を見据えた確かな「社会人力」を養うことができます。公務員志望の学生については、民間の予備校と提携した公務員試験対策講座を用意。さらに出身地など地方での就職をめざすU・J・ターン志望者についても各地域と就職支援協定を結び、ガイダンスから個別相談まで丁寧にサポートします。

「甲南大学キャリアセンター」 各々の個性と時代の変化をふまえ、 十人十色の未来を支援する

コロナ禍によって混乱を余儀なくされた就職活動においても、さまざまな進路を選択する学生のサポートや個々のニーズに応じた支援を続ける甲南大学。その支援と未来を見据えた現状についてキャリアセンターに聞きました。

キャリア支援プログラム開催数と参加人数(年間)	
開催数	参加人数
年間 170 プログラム	延べ 8,275 人
2021年3月実績	



オンライン面談や感染対策を講じ、対面による個別相談も実施



オンライン化を迅速に進め、流動化する就職活動に対応する
コロナ禍を受けてオンライン相談を導入するとともに学生の要望に応じてオンラインでの面接練習もいち早くスタートさせました。就職活動をめぐっては、2018年の経団連による「採用選考に関する指針」の廃止以来、開始時期の流動化が進んでいます。この変化に対応するため、インタビューシートのエントリーシート作成講座や面接対策を前期にも実施するなど新たな試みをスタートさせました。また、キャリアガイダンスをはじめとした各種対策セミナーの動画を本学のポータルサイトにアップし、必要な人が必要な時に学べる環境も整備しました。

かねてより本学は地元企業からの信頼が厚く、同窓会組織の規模と絆の強さで知られています。実際に「OB・OG懇談会」をきっかけに最適な進路を得た学生も少なくありません。このように各界で活躍する先輩方とのネットワークも甲南大生の未来を支える大きな強みです。今後も、私どもキャリアセンターは、コロナ禍で進路に悩む現役生を個別に支援するとともに、就職活動を継続する卒業生のサポートにも一層力をいれ「なりたいたい自分」を手に入れるための歩みを全力で支えてまいります。

※「就職率」は就職希望者に占める就職者の割合を指し、就職者数を就職希望者で除したものとします。
※「就職希望者」は卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者で、卒業後の進路として「進学」「家事手伝い」「資格取得」などを希望する者を含みません。

専門性と語学力を生かし、世界的なコンサルティングファームへ

採用試験においては、プログラミングスキルのテストで高得点を出すなど学部における学びの成果を実感しました。現在も、「Open Role（人物の骨格をディープラーニングで推定するシステム）において姿勢推定の精度を上げるには」をテーマに卒業研究を進め、さらに専門性を高めています。キャリア関連の授業、「キャリアデザイン基礎（2年次）」や全学部の学生が受講できる「プラクティカル・キャリアデザイン（3年次）」などでグループワークを体験したことがオンラインでのディスカッションや面接に、大変役立ちました。卒業後は、日本語とウルドゥー語（インドの主要言語の一つ）に加え、TOEFLスコア895点の英語力をさらに磨いて、グローバルなコミュニケーション力を備えたデジタルコンサルタントとして活躍したいと思えます。

多言語コミュニケーション力と 先端テクノロジーの知識を強みに

を生かせる領域の幅広さに改めて気づきました。そこでゲーム開発企業だけでなくIT関連企業から電機メーカーまで視野を広げて就職活動を展開することに。内定先の総合コンサルティングファームは、世界120か国以上の企業を顧客にもつ多国籍企業です。グローバルな環境で先端テクノロジーに関する知識を生かし、IoT（モノのインターネット）やAR（拡張現実）、ブロックチェーンなどビジネスにおける最前線の課題に取り組める仕事に大きなやりがいと面白さを感じて就職を決めました。

ゲームエンジニアをめざしていましたが、企業研究を進めるうちに知能情報学部の知識

活躍できる領域の幅広さを知り、 ゲーム開発から他業種へ



アクセンチュア株式会社
内定
知能情報学部
知能情報学科 4年次
トラバリー
寅巴里 アーデイルさん

就職活動のプロセス

3年次の夏休みからゲーム開発企業を中心に企業研究を開始し、インターンシップを申し込む。翌年、内定先企業に興味を持ち、エントリーシート提出、オンライン面接を経て内定を得る。

東京海上日動火災保険
株式会社 内定
法学部 法学科 4年次
ふじい ゆうか
藤井 佑香さん

就職活動のプロセス

3年次の8月から約10社のインターンシップに参加。キャリアセンター主催の「OB・OG懇談会」にオンライン参加し、就職活動のアドバイスをもらう。



ティションを通じて幅広い業務を経験し、企業の一員としての責任を果たすことが目標です。そのためにも在学中にファイナンシャルプランナーの資格取得に向けた勉強とコンピュータスキルの向上に取り組みたいと思います。

自分の強みを知り、就職活動に。オンライン面接も自然体で

迷いを自信に変えてくれた キャリアセンターの親身なサポート

就職活動を意識し始めたのは、3年次の4月。暮らしの安心を支える仕事に就きたいという思いがコロナ禍によってさらに強まり、生命保険会社を中心に企業研究を始めました。夏ごろからは、銀行やクレジット会社なども加えて10社ほどのインターンシップを体験。ほぼすべてオンライン形式でしたが、仕事の実態を理解する貴重な機会になりました。キャリアセンターに問い始めたのもこのころです。最も印象に残っているのは、自分の強みがわからず悩んでいたときに、「あなたの強みは、責任感だと思う」とアドバイスしてくださったことです。漠然と自覚していたことを明確に指摘していただき、迷いがなくなりました。エントリーシートも丁寧に添削してくださり、自信をもって就職活動に臨めたこと感謝しています。

卒業後は損害保険会社へ。 企業の一員として責任を果たしたい

コロナ禍のステイホーム期間は、自分を見つめて将来の方向性を考える貴重な機会でした。内定先への就職を決めたのは、損害保険のカバーする領域の広さと個性を發揮できる社風の魅力を感じたから。甲南学園の創立者である平先生ゆかりの歴史ある企業で働けることも光栄に思っています。選考はほぼオンラインでしたが、面接対策講座やキャリアセンターの個人面接練習のおかげで、まったく緊張せず自然体で臨むことができました。就職後は、ジヨブロー

夢をカタチに。日本酒の魅力伝えるために「起業」の道を選ぶ

卒業後の方向性を決めた2か月後、「甲南大学日本酒研究会」を設立しました。翌2020年には、大学から任意団体として認められ、本格的な活動を開始。新型コロナウイルスの感染拡大によってSNS中心の活動になりましたが、オンラインで出会った東京農業・横浜国立・中央・明治・一橋・名城大の学生とともに全国学生日本酒連盟を発足し、今では17団体にまで広がりました。また同年10月から剣菱酒造の魚崎蔵に半年間住み込み、蔵人として酒造りを一から体験したことも大きな自信につながっています。日本酒ソムリエである剛酒（きき酒）師に続き、現在は、チーズコーディネーターの資格取得にも挑戦中。誰もがカフェのように気楽に立ち寄ることができ、その魅力に触れられる「日本酒バー」を創る…、その日に向けて一歩ずつ着実に進んでいます。

蔵人として酒造りを一から体験。 貴重な学びを将来のアイデアに

した。甲南に進学後、酒蔵の並ぶ灘五郷を歩いたときは、故郷の風景を思い出して懐かしく思ったほどです。就職活動をスタートした際は、視野を広げるために酒造メーカーや不動産など複数のインターンシップに参加。現場の実際を学んだおかげで「日本酒の魅力を多くの人に伝える『日本酒バー』を創る」という目標が明確になり、両親にも理解を得ることができました。ラーニングアシスタントを務めた「ベシック・キャリアデザイン」の先生が、第一線で活躍する卒業生を紹介してくださるなど常に応援していただいていることも励みになっています。

未来への道は一つじゃない。 先生方の理解と応援も励みに

日本酒の三大産地の一つ、広島県東広島市西条に生まれ、日本酒を身近に感じて育ちま



起業のために準備中
法学部 法学科 4年次
やまさき ゆうすけ
山崎 友輔さん

起業に向けてのプロセス

3年次のインターンシップ後、将来の方針を転換。学内の研究会や全国学生日本酒連盟の設立を通じて大学生の日本酒ファンを組織し、酒蔵での蔵人にも挑戦するなど「起業」に向けた土台づくりに力を入れる。